

全体位置関係



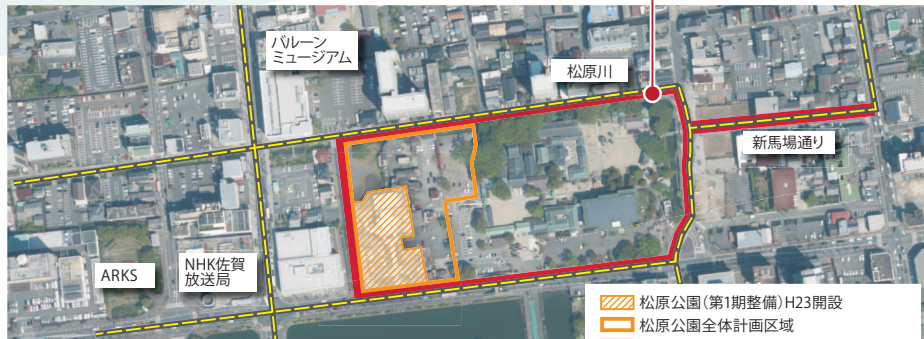
松原公園周辺の沿革

- 1772 (明和 9) 佐賀藩祖直茂公を祀る松原神社(日峯社)創建
- 1817 (文化14) 松原神社参道として新馬場が開かれる
- 1840 (天保11) 藩校弘道館の移転拡張
- 1913 (大正 2) 直正公銅像建設、佐賀図書館落成
- 1927 (昭和 2) 徴古館開館
- 1933 (昭和 8) 別格官幣社佐嘉神社創建、直正公遷座
- 1991 (平成 3) 松原川整備事業完成
- 2011 (平成23) 松原公園開設
- 2022 (令和 4) NHK新佐賀放送会館運用開始
- 2022 (令和 4) ARKS(くすかぜ広場)オープン



Future image of Matsubara Park area

松原公園周辺の将来像



基本事業

- 松原公園の拡張整備
- 松原川的环境整備
- 新馬場通り(松原神社参道)の整備
- 神社エリアの再整備との連携
～佐嘉神社創建100年に向けて～
- 鍋島報効会、佐嘉神社等が保有する貴重な歴史資料の公開・活用
- 松原一帯の歴史と伝統、環境等についての周知啓発
- 城内、中央大通り、柳町等と結ぶ周遊・回遊ルートの構築
- 鍋島報効会、佐嘉神社、佐賀県、佐賀市の連携維持

懇話会委員(五十音順、敬称略)

任期:令和3年8月6日～令和5年3月31日まで

牛島 英人(座長/一般社団法人佐賀市観光協会 会長)、甲斐 直美(佐賀県総務部 部長/R4.8.18～)、
 實松 尊徳(佐賀県文化・観光局 局長/R4.8.18～)、佐野 安正(佐嘉神社 宮司)、
 重松 恵梨子(シアター・シエマ 支配人)、白井 誠(佐賀市 副市長)、
 田中 裕之(佐賀県文化・スポーツ交流局 局長/R4.3.31まで)、中尾 清一郎(佐賀鍋島伝承遺産顕彰会 代表世話人)、
 中尾 友香梨(国立大学法人佐賀大学 全学教育機構 教授)、鍋島 直晶(公益財団法人鍋島報効会 理事長)、
 元村 直実(佐賀県総務部 部長/R4.3.31まで)
 事務局:佐賀市



2023(令和5)年3月
 松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会

Future image of Matsubara Park area

松原公園周辺の将来像

佐賀鍋島の伝統と、 文化が息づく 歴史体感エリア

～みんなで創り、未来へ紡ぐ“松原”～



基本理念

松原一帯は、江戸時代からの歴史の変遷の後、現在は龍造寺家や佐賀藩祖を祀る松原神社、10代藩主直正公らを祀る佐嘉神社(旧別格官幣社)、鍋島家伝来品を所蔵する徴古館があり、佐賀の歴史文化の象徴となる意義深い場所です。現代においてはSAGAサンライズパークエリアから佐賀城公園エリアへの南北軸の動線上に、また、まちなかと城内とを結ぶ重要な位置にあり、まさに「歴史」と「まち」をつなぐ場所となっています。

このため、一帯の核となる松原神社・佐嘉神社・徴古館と、松原川や楠の緑と相まった歴史的景観の維持向上を図り、佐賀の人々が誇りに思い、未来(後世)にしっかりと継承していけるようなエリアとなるよう、取り組みを進めていきます。神社、鍋島報効会、県、市が連携することで、ここを起点とした周辺との回遊を創り出せるエリアづくりをめざします。

第1期整備の経緯

- ・大正から昭和初期の松原一帯は、銅像園として緑と池が配置された広く静かな公園
- ・昭和63年度から平成3年度にかけて松原川の環境整備が行われ、平成21年度から平成22年度にかけては、徴古館エントランス部分を再整備し、平成23年に新たな松原公園を開設



第2期イメージ

第2期整備の整備コンセプト

- ・憩いの緑や松原川の水辺を活かし、気軽に訪れたい場所として整備し、核となる松原・佐嘉神社・徴古館へと誘う
- ・まちなかからの動線や徴古館・神社との自由な往来を意識した整備

整備例

- 新松原マーケット(仲見世)の整備
- 水辺空間を活かした施設整備
- 緑地、まちなかからの動線整備



将来の整備コンセプト

- ・1913年(大正2年)に建立された佐賀藩第10代藩主直正公の銅像のある銅像園や佐賀図書館など、この土地の持つ歴史性を活かす整備
- ・まちなかからの人を呼び込む設え(美しい歴史的景観とまちなかからの動線を意識)

整備例

- 佐賀鍋島の歴史や文化に触れる場所(かつて佐賀図書館があったエリア)
例 鍋島報効会・神社・県・市が持つ貴重な史料や文物を一堂に展示
- 歴史を活かした公園整備
- 新馬場通りの拡張(松原神社の脇参道整備)